

住民協働による「天塩の^{くに}國眠れる地域資源 グローバル活用プロジェクト」

天塩かわまちづくり協議会

天塩町は、北海道最北部の日本海側に位置する人口約3,000人の漁業と酪農の町です。北の大河天塩川流域には、風土に根差した歴史や自然、文化、生活、人など地域特有の資源と財産が豊富で、明治時代の終わりには沿岸漁業と木材資源の集積地として勃興し、酪農と漁業を基幹として栄えました。

本会は、河川管理者や地方自治体、関係機関・団体と連携を図り、会員の知恵の結集や創意工夫により、活用できる資源や魅力を再発見し、それらを有効活用して、地域の活性化とかわまちづくりに寄与することを目的としてこれまで以下の活動を行っています。

1 観光まちづくりに資する活動

観光まちづくりに資する活動としては天塩川の季節の移ろいを軸に動植物や景観等の地域の魅力を視覚的に表現するフェノロジーカレンダー（生活季節暦）の制作や町の玄関口であり、来訪が最も多い「道の駅てしお」のイメージアップと、おもてなし演出のため、廃棄物のペットボトルを材料に天塩川の動植物などをペイントしたオリジナルのランタンを製作、展示。これらのコンテンツのアウトプットとして、住民主体のイベント「天塩町フェスタ」を過去6回開催しました。

2 大学等と連携した研修等の活動

大学と連携した研修等の活動については北海道大学やオーストラリアのマードック大学と連携し、河川地域内の調査や天塩川河川公園でのフィールドワーク等を行い、地域資源の観光への利活用について意見交換会を行っています。

3 歴史に関連する活動

日本最北の和船文化継承の取り組みとして高知県 須崎工業高校（現 須崎総合高校）から和船の譲渡を受け、各種イベントで和船試乗体験会を行っています。また旧役場庁舎を利用した天塩川歴史資料館の利活用として要望書の提出も行いました。その他地域固有の歴史文化財「川口遺跡竪穴住居」の修繕活動や松浦武四郎のパネル展、足跡を巡るツアーや、天塩川昔の写真展を開催しました。

その他、野鳥観察会、地域の未利用資源「イタドリ」を活用したジャム等の試作、商品化の取り組みなど自然や食に関する活動も行っています。

汎用性の高い観光資源や施設に乏しく、都市部及び交通ハブからのアクセスにおいて条件不利である当地において、活動を自走・持続させていくためには、活動を担うことができる人材の育成と近隣自治体とも連携し、交流を通じた成長の機会の創出、地域資源に固有価値を見出し、付加価値化させるための資質・能力が必要となってきます。

今回の助成では、①インバウンド誘客：天塩町の魅力を発信するコンテンツを企画・制作し、SNSを活用した情報発信を積極的に行い、外国人観光客を含め、町への訪問者を増加させ地域活性化に繋げること。②天塩川と天塩町の認知度を向上させ、フォトジェニックな夕景による地域資源のブランディング化の推進。③若年層を中心とした関心と呼び込む取り組みを通じて、既存のまちづくり活動の高齢化という課題を克服及びまちづくり活動の持続性の確保を目的に、『住民協働による「天塩の國眠れる地域資源グローバル活用プロジェクト」』として、

- ・ SNS活用・情報発信ワークショップ
 - ・ インバウンドを主対象としたレンタサイクルのモニタリング検証
 - ・ てしお川インス「夕」映えフォトコンテスト
- を実施しました。

「SNS活用・情報発信ワークショップ」では、当会メンバーと地域おこし協力隊が中心となって地域住民を集めて住民及び各プレイヤーの意見を円滑に抽出～整理するためファシリテーション技術を有する外部コーディネーターに委託してワークショップを開催しました。他地域における成功と失敗の事例を幅広く収集し、ワークショップの議論の材料とし、収集した事例を学ぶ時間を設けた上で、天塩町の地域特性に適するかの観点で議論を行いました。その結果、SNSの内容、特性への理解が進み、議論の中から、町のゆるキャ

ラである「てしお仮面のLINEスタンプ」、「道の駅発周遊モデルコースパンフレット」、情報発信WEBページ「のぞき見・てしお」が生まれました。

「レンタサイクルのモニタリング」では天塩町の来訪入り込みの大部分を占めるマイカー（レンタカー）での来訪者に対して、天塩町の活性化に繋がる河川水辺空間の利活用の推進に向けて、町外からの訪問者が多い「道の駅てしお」と「てしお温泉夕映」にレンタサイクルを試験的に設置し、利用状況を把握しました。今後のレンタサイクル利用環境の整備やフットパス等の河川空間整備が進められている天塩川河川公園への町外からの訪問者の誘導方法の検討の基礎資料とすることを目的として、利用者にアンケート調査を実施し、検証を行いました。アンケート結果から、利用時間は両施設ともに約1時間程で利用目的は観光や散策目的など少し遠出する方が多いことがわかりました。また有料だった場合の料金設定に関するアンケートの結果300円～500円という結果が多数でした。「無料」「手軽」といったキーワードも多くみられたことから、時間制も含めた今後の運用を考えていきます。

「てしお川インス「夕」映えフォトコンテスト」は、まずは、地域の若者に興味・関心をもってもらうためには、SNSとして「インスタ」があるじゃないか、そこで、インスタグラムでのフォトコンテストをやってみよう！と始めました。実施にあたっては、外国人も対象にしている点などの企画の独自性、特長をメディアへプレスリリースを行うとともに、天塩町公認インスタグラマー（全国初の自治体公認・フォロワー8万

人）へ広報支援を依頼しました。一般的な全国で行われているフォトコンテストは、観光で来てもらった方に現地で写真を撮ってもらって、写真を応募してもらうのですが、上述した通り天塩町はアクセスにおいて条件不利であることから、応募写真の条件を夕日の美しい景色が撮れる優位性をアピールしたい狙いもあり「川と夕日」が1枚の写真に入っていればどこでもOKとしました。コンテストは地元の若い人たちを中心に152件投稿していただきました。参加いただいた方には、あらためて感謝申し上げます。時間はかかるかもしれませんが、地元の方が、この川の価値を再認識（再発見）し「川」や「まち」に関心を持ち、良くしようと意識の変革が外部者にも、その価値を気付いてもらうことで、新たな交流や関係性の創出を目指していきたいです。

今後の活動では、全国的に新型コロナウイルス変異株の流行による感染再拡大が見られ、制限がある中での活動となりますが、ウイズコロナ時代におけるSNS等のオンラインツールを活用した有効なコミュニケーション手段と情報共有方法の確立や活動メンバー固定化解消のための新規参画メンバーの創出、行政主導から民間主導への転換を図り、地域住民が天塩川の魅力を活かして様々なアイデアを提案・実施するとともに、地域資源、素材の理解、地域社会のインフラ（天塩川河川公園、鏡沼海浜公園）の利活用を検討し、積極的に「かわ」と「まち」をつなぐ取り組みを行って参りたいと思いますので、今後ともよろしく願い申し上げます。



ワークショップの様子



レンタサイクル設置